

国際社会学部

藤井 豪

FUJII Takeshi

地域研究コース／東アジア地域

歴史学



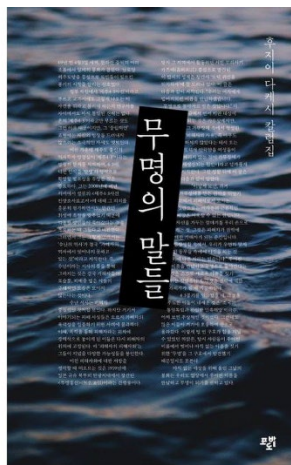
朝鮮近現代史を通してみる世界

専門は朝鮮の近現代史、もう少し具体的には南（＝韓国）の現代史を政治史と思想史をクロスさせるような形で研究してきました。その一方で二十年ほどソウルで暮らし、様々な社会運動などにも関わったりしてきましたので、比較的最近の韓国社会の具体的な事情にも通じています。ご存じの通り朝鮮の近現代史は植民地支配、分断、戦争、大国の干渉、独裁などまさに試練の連続でした。しかしそのなかでも多くの人たちは圧制に抗し、自らの権利のために闘ってきました。現在の韓国の映画やドラマの質の高さも、与えられたものをそのまま受け入れて生きるのではなく、自分たちの生を自分たちで作り上げてきた経験の蓄積にその根を下ろしています。また北側では独裁が続いていますが、その独裁を正当化させている根拠の一つが米国を中心とする勢力の軍事的圧力であることを考えるなら、そこには大国への抵抗という側面が含まれており、これをどう考えるべきかはそれほど単純なものではありません。この複雑な歴史のなかでの具体的な人々の様々な思いに触れていくことで、わたしたちに見えている世界はより豊かな相貌を見せてくれるはずです。

研究紹介

初期の大韓民国政府において中心的な勢力の一つであった「民族青年団系」と呼ばれる、ファシズムの系譜を汲む人々についての研究を行ってきました。ファシズムというとヨーロッパのもの、あるいは帝国主義国家のものといったイメージがありますが、実は1930年代の中国においてもファシズムを積極的に受容しようという動きはあり、中国で独立運動を行っていた朝鮮人が蒋介石経由でファシズム的な思想を受け入れていくという流れが存在していました。ファシズムと抵抗民族主義のつながりという問題は、ファシズムや民族主義について改めて考え直す必要を提起するものであり、また抵抗というもののあり方についても根本的な問いを投げかけています。

そのような問題意識の延長線上で2010年代には韓国の『ハンギョレ』という日刊紙にコラムを連載し、当時の韓国における政治や社会、あるいは社会運動のあり方についての問題提起を行ったりもしてきました。



担当授業

- 朝鮮近現代史
- マイリティの目から読む韓国社会
- 解放期の南北朝鮮の政治と社会
- 朝鮮戦争を考える
- 日本で朝鮮を語るということ

関連する分野

- 政治史
- 思想史
- 社会運動

出版物

韓国現代史

- 『ファシズムと第三世界主義のあいだで』
- 現代韓国社会
- 『無名の言葉たち』

国際社会学部

〈方法としての朝鮮韓国〉ゼミ



どのようなゼミか

ゼミの基本的なベースになるのは朝鮮近現代史ですが、単に知識として歴史を学ぶということではなく、その歴史から何を学ぶ（ことができる）かに焦点が当てられます。そのためいわゆる「歴史」というよりはごく最近の韓国内での動き（フェミニズム、兵役拒否、などなど）に関するものを読み、議論するという形が中心になります。単に知識を増やすのではなく、知識のあり方そのものも再考しつつ自分（たち）自身の現在の位置とそこに孕まれている可能性を探ることを目標としています。

朝鮮近現代史は、東アジアにおける覇権が中国から日本へと変化していく最中から始まり、日本による植民地支配を経た後、米ソの対立を軸に冷戦と呼ばれる世界秩序が形成されていくなかで、南北に分断された二つの国家が生み出されてきたように、国際関係の変動に大きく左右されてきました。しかし注意したいのは、朝鮮の人々がただ周辺の大国に振り回されるだけの存在だったわけではないという点です。外部の強大な力に、そしてそれを背景とした独裁権力に苦しめられながらも（南北）朝鮮の人々は様々な抵抗を試みつつ生き抜いて来ました。現在も朝鮮戦争が停戦状態であるように軍事的緊張は続いています。その結果として社会に蔓延している軍事主義に抵抗していく動きとしてフェミニズム運動や兵役拒否をはじめとする平和運動も続けられています。自分たちの日常と戦争とが地続きであること、だからこそ日常の中から戦争に抗する動きを作り上げていくことが重要であるというメッセージは、いまの日本社会においても大きな意味を持つように思われます。

そしてこういった問題を考える際、物事を歴史化して考えるというやり方は重要なツールとなります。当たり前と思われる制度や習慣も実は歴史のなかで、様々な偶然の重なり合いの中で形成されたものに過ぎないということに気付いたとき、わたしたちを縛っている「思い込み」は揺らぎ始めるでしょう。

卒論

- 「5.18 言説」の展開を通して見る 1980 年代韓国民主化運動
- 脱コルセットを脱コルセットする
- KPOP、「ガールクラッシュ」、そして韓国でのフェミニズム大衆化
- 『母を願ひ』の罫

おススメの本

- クォンキム・ヒョンヨン編『被害と加害のフェミニズム』
- イ・ミンギョン『脱コルセット』
- 鄭暎恵『〈民が代〉斉唱』
- 梶村秀樹『排外主義克服のための朝鮮史』
- 高島鈴『布団の中から蜂起せよ』
- 酒井隆史『暴力の哲学』
- デヴィッド・グレーバー『アナキスト人類学のための断章』

（地域社会研究コース 藤井豪ゼミ）

藤井ゼミは朝鮮近現代史を扱うゼミですが、フェミニズムやマイノリティへの差別など、様々な関心を持つ学生が集まっています。ゼミでは、他者との対話の中で自分の考えを言語化することを大切にしています。毎週課題文献を読み討論を行います。何気ない会話から自分の考えが実は固定観念に満ちたもの、あるいは他者を無意識に傷つけるものであった、と気付く時があります。日本で朝鮮を語ることがタブー視される中、こうして自分の思考過程に向き合うことは「なぜ朝鮮に興味を持つのか」を問い直す機会になります。また、自分は他者とどう関われるかを自問自答し、そのための態度を養うことは、大学という枠を超えた自分の生き方を見つめることに繋がるでしょう。とはいえ、先生を交えて学食に行ったり、ゼミ旅行に行くなど、穏やかに楽しい雰囲気でのゼミです（笑）

朝鮮史、日韓関係、フェミニズムなどに関心ある方、お待ちしております！